

派遣報告書（報告者；中屋敷 大）

大会名	第 80 回南九州 4 県対抗バスケットボール選手権大会		
開催地	鹿児島県		
日 時	令和 7 年 4 月 26 日（土）～ 27 日（日）		
担当ゲーム 1	（男子） 宮崎工業（宮崎①） vs 九州学院（熊本①）		
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：田島 誠孝（大分） U2：川畑 龍輝（鹿児島）		
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference			
・最近の課題や今回自分自身取り組みたいことの確認			
・正しい判定をするためのポジションアジャスト			
・ベンチへのコミュニケーション			
・クルーでのアイコンタクト			
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference			
担当ゲーム 2	（男子） 柳ヶ浦（大分①） vs 宮崎工業（宮崎①）		
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：豊倉 和樹（鹿児島） U2：坂元 孝浩（鹿児島）		
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference			
・最近の課題や今回自分自身取り組みたいことの確認			
・クルーと T0 でコミュニケーション、アイコンタクトを取り処置ミスゼロに繋げる			
・サイズの差があるので留学生に対する守り方			
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference			
・留学生に対する守り方への目の当て方はクルーとして協力してできた。			
・ガードのドリブラーに対する守り方は、テンポセットを早めにするべきであった。			
・少しダラダラとした雰囲気を作ってしまったので、こちらがリスタートであったり、シャツを入れさせたりなどの声掛けでテンポを上げたほうが良い場面があった。			
担当ゲーム 2	（男子） 慶誠（熊本①） vs 小林（宮崎①）		
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：坂元 孝浩（鹿児島） U2：田島 誠孝（大分）		
（担当ゲーム 1）Pre-Game Conference			
・ベーシックなメカの確認			
・正しいポジションで見るためのポジションアジャストの確認			
・体の寄せ、手のところのテンポセット			
・留学生に対する守り方や、また足元のトラベリングを見るためにトレイルも視野の確保			
（担当ゲーム 1）Post-Game Conference			
・手の使い方や、体の寄せ方に対するクルーとして同じ基準で笛を入れることができた。			
・EOQ のところで集中力が切れ、ベンチとしては不満な笛が入った。そうならないためのタイムアウト時に相手を乗せる声掛けの工夫が必要出会った。			
・アイコンタクトを取り、クルーでコミュニケーションを取りながらゲームを終えることができた。			
・ファウルの数などは同じくらいであったが、同じようなケースでも鳴らないことがあり、ベンチは少しフラストレーションが溜まる場面があった。CC として、ケイデンスで飛び込んだ方が良い場面があり、これに関しては自分の中で課題が残った。			
・コフィンコーナー付近のダブルチームに対して、PGC ですり合わせをしたことを実践することができた。			

今大会に参加しての感想など

今回3試合ともCCとして担当させていただいた。その中で感じたことは1試合を通して3人で吹き続けるためにどうすれば良いかということをもっと日頃から取り組んでいかないと、クルーで試合の途中に集中力が切れ、判定力が鈍り、ベンチからの不信感につながると感じた。そのためには初めて組むクルーにはPGCの段階で、エッジを無くす雰囲気作りをしていく工夫が必要だと感じた。また、判定では影響のところを考えすぎての判定が甘い部分があった。マージナルの部分が少しずつ広がり自分自身で笛を鳴らしにくい状況を作ってしまった。また、個人的には今回クルーをアクティブにしたいという思いからローテーションを積極的に行うように心がけた。まだ研鑽中なので必要のない場面もあったものの、良いきっかけを掴むことができた。

今回、派遣してくださった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。